

# 東西比較論

## || 発言の積極性

**内容** 西洋人は積極的に発言するのに対し、東洋人は発言に消極的である。



**原因** 「言葉」と「心」  
…西洋人は言葉で自分の意志を表現することを重んじている。一方、東洋では「大切なことは言葉に表現するべきではない」という文王の思想に基づき、言葉で表現することよりも心で示すことを重要視している。

**見解** **東**・相手を傷つけてしまうかもしれない  
・良心に基づいて態度で示した方がいい  
**西**・曖昧な表現では正確に伝わらないかもしれない  
・ディベートや裁判で勝てない

## || 空間の区切り方

**内容** 西洋は境界を物理的な障壁で区切る。一方、東洋では物理的に境界を区切ることは無いが、心理的に境界を認識する。

**原因** 円環的世界観と直線的世界観

## || 規則に対するイメージ

**内容** 東洋は規則に対してネガティブなイメージを持っており、規則で人を縛るのは必要最低限にして、良心に基づいた行動によって秩序を維持しようとしている。一方で西洋は規則に対してポジティブなイメージを持っており、行動の指針として規則を設けていた。

**原因** 「言葉」と「心」

**見解** **東**・ルールだけを守り、自分で考えなくなる  
・みんなの意見が反映されない  
**西**・規則がないと統率がとれない  
・理想や目標を表現するための手段となる

## || まとまる西洋、つながる東洋

**内容** 西洋では国家間の連携に共同体を用いる一方、東洋では協定という関係に留まる

**原因** 歩んできた歴史

…西洋では昔から国境を越えた移動が頻繁に行われ、また、宗教も統一されていたため、現在でも国家が他国と連携することに抵抗を持っていない。一方、東洋では勢力の均衡が崩れていたことや宗教が混在しているために、西洋ほどの親密な関係を築かない。

**見解** **東**・国ごとのつながりを大切にしている  
・他の国に干渉されず、国ごとの意志を尊重できる  
**西**・国々がひとつのまとまりとして協力している  
・苦しくなった時、お互いを助け合う事が出来る

## || 二大宗教

**内容** 西洋ではキリスト教を信仰しており、東洋では仏教を信仰している。

**原因** 森林的思考と砂漠的思考  
円環的世界観と直線的世界観

## || 宗教的建築物

**内容** 西洋では教会を中心とした都市区画の整備を行い、街が拡大しても教会が街のシンボルとしての機能を失うことの無いように考えられている。一方で東洋では、寺は街の中に点在し、直接的に寺の存在を認識することを重んじていない。

**原因** 拡大する文明、深める文明

**見解** **東**・シンボルのことを考えずに都市拡大を行える  
・西洋に比べて都市拡大の速度が速い  
**西**・シンボルを強調したまま都市拡大を行える  
・東洋に比べ道路区画の整備が充実されている